

第3回 東かがわ市基本構想審議会 報告書

【日 時】 令和5年2月2日（木） 9:55 ~ 12:10

【場 所】 東かがわ市交流プラザ 1階 第1・第2市民会議室

【参加者】 東かがわ市基本構想審議会委員 7名（2名欠席）

総務部長、財務課長、官民連携マネージャー

経営GL、経営G 2名

基本構想ワーキンググループリーダー・サブリーダー 5名

【審議会内容】（1）東かがわ市基本構想アンケート調査結果について
 （2）次期東かがわ市基本構想【素案（概要）】について
 （3）次回審議日程等について
 （基本構想策定スケジュール、審議会開催予定等）

【審議会委員 意見】

（1）東かがわ市基本構想アンケート調査結果について

1	アンケート全体の印象はどうだったか。（アンケート項目・自由記述）
	【事務局回答】 全体的に、「自然・安全」の評価が高く、「雇用・経済・公共交通」の評価が低いという結果であった。
2	20歳代未満の定住意向が低いが、大学進学等のタイミングであり、仕方がない部分がある。その次のステージで、「移住・定住」へとつなげることが大事である。
3	アンケート結果については、概ね想定していた結果と同じであった。 アンケート【住み続けたい一番の理由】として、「災害対策が充実している」の回答が低い結果となっている。「防災に対する意識」が低いことが問題である。
4	防災対策について、ハード整備の進捗はどうか。また、地域の防災訓練等の参加について、時間の制約等により参加率が低い傾向である。
	【事務局回答】 ハード整備については、各事業計画に沿って進めている。 ソフト面での対応が今後の課題という認識である。
【事務局から質問】 防災関係について、若者世代が地域の防災訓練等に「参加していない・参加しづらい」という結果となっている。どのようなことが要因と感じるか。	

5	<p>防災訓練等を「自治会単位」でやるということが問題であると感じる。</p> <p>参加への強制力も必要であり、こども園や学校での行事と合わせて開催することも良いと思う。授業参観の後にでも、防災訓練等を行ってはどうか。土日どこかで集まってやるというよりは、子どもと一緒に参加するほうが保護者間のつながり・連携は深まる。災害発生時においても、保護者間のつながりは大事である。</p>
6	<p>広報紙は見ているが、防災訓練等の情報が身近にないと感じる。</p> <p>若者世代の参加については、「情報が無い・届いていない」ことが課題である。</p> <p>参加しやすくしても、防災訓練等に参加しない人は参加しない。</p> <p>強制力も必要だと感じる。若者世代にとっても、「参加しないといけない・したほうがよい」という意識はある。</p>
7	<p>市民全体に防災に対する「危機感がない」ことが課題である。近年、市内では大きな災害が発生していない中で、どうやってその意識を持ち・保つかが課題である。</p>
8	<p>防災訓練等に参加する「意義」を伝えること・意識の改革が大事である。周知の方法の改善や参加率の向上に向けた負担等の解消に合わせて、「何のために」を伝える工夫が大事である。</p>
9	<p>「地域のつながり」が大事であるとの認識はあるが、災害発生時は、家族や身内への支援が第一となる。</p> <p>-----</p> <p>【事務局回答】</p> <p>大規模災害の発生時には、「公助」だけでは対応が難しく、「自助・共助」を深める取組が大事であると考えている。そのつながりによって、地域の防災力の向上につながると考えている。</p>
10	<p>防災のためだけという認識ではなく、防災訓練等の参加によって、地域の協働・人間関係のつながりを深めるという側面があることを伝えなければならない。取組の意識を一步広く捉えることで、共助の意識が深まる。</p>
<p>【事務局から質問】</p> <p>まちのイメージとしての「子育てがしやすい」の項目について、「20歳代が低い」という結果となっている。この結果についての要因や、委員皆様の経験・実感等のご意見をいただきたい。</p>	
11	<p>自分自身が市内出身であり、20歳代で結婚・出産、住宅新築、子どもの就学を経験する中で、「他の自治体と比べて、子育てがしやすいから東かがわ市で子育てしよう」という認識は正直なかった。実際に子育てをする中で、「自分たちで子育てをしていかなければいけない」という意識のほうが高かった。妊娠・出産・子育てのそれぞれのタイミングで制度やサービスの情報を自分自身で集めてきた。子どもができれば、「ここでどうやって暮らしていくか・子育てしていくか」という意識となった。</p>
12	<p>20歳代は、保護者自身の両親（祖父母）も仕事をしており、両親からのサポートを受けられず、30歳代になると、両親が定年となり、子どもを預けることができると</p>

	<p>いう状況も、「子育てのしやすさ」に影響するのではないか。</p>
13	<p>他の自治体と比べたことがない。自分自身、子育て環境について、東かがわ市に大きな不満は感じていない。ここで子育てをしていかないといけないという意識のほうが高い。</p>
14	<p>自分自身も、子どもができてから、制度やサービス等について調べだした。これから子どもを産み・育てる世代への支援・情報の提供が課題と感じられる。</p>
15	<p>ひとつのつながりは、日々の生活が充実することで深まる。 子育ての充実といっても、実際のところ市内には産婦人科がなく、児童館の閉館という現状がある。身近な公園の整備・管理については、都会の方が進んでいる部分もある。 ハード整備よりはソフト面での充実や情報発信が必要である。 学校単位での取組であれば、情報もすぐに伝わるし、子どもから親、祖父母、家庭内に伝わり、地域のつながりも深まる。 大規模商業施設が市内に来ると、市内の個人商店等に影響が出る。より事業者間の協力が大事となってくる。 東かがわ市からなら、お出かけ感覚で高松・徳島にも行ける。 ここに住むメリットについて、家庭の中でも、共通の意識を持つことが大事である。</p>

(2) 次期東かがわ市基本構想の【素案（概要）】について

16	<p>まちづくりビジョンについて、職（しごと）についての記載がない。しごと（産業振興）について、表現すべきではないか。</p>
17	<p>ビジョンⅠ（ひととまちがともにつながる）では、「地域愛着・産業振興」をビジョン内容として位置付けているが、「しごと・経済」について伝わりづらい。 「ひととまち」から「地域愛着・産業振興」がイメージしづらい。 また、ビジョンに係るプラットフォーム・分野ごとの整理も必要である。</p>
18	<p>前向きで、きれいな言葉で整理できている。今後、この基本構想をどのように実行していくかが大事となる。</p>
19	<p>素案全体として、「可もなく・不可もなく」といった印象である。基本構想の位置付けとして、市政全般的な整理となるので仕方ないと思う。</p>

【事務局からの質問】

ビジョンⅠ（ひととまちがともにつながる）の「ひと」は、「人・事業者・地域・多様な主人公等」をイメージし、総じて「ひと」と表現している。「しごと」についての分野の含み方として、どのような手法・表現があるかご意見をいただきたい。

《キーワード》

まち・ひと・しごと総合戦略（しごと⇒ひと⇒まちのイメージ感もある。）

⇒ デジタル田園都市国家構想総合戦略

20	<p>「しごと」という分野を含み、表現することは重要である。</p> <p>「地域愛着」と「産業振興」が繋がらないと感じる。</p> <p>ビジョン毎の目的・分野・関連するプラットフォームの関係性を整理すること。</p> <p>アンケートでの課題を基本構想に盛り込むように整理すること。</p>
21	<p>「官民連携」の分野について、知識や意識がない人もいる。その人たちにも伝わるような形で整理すること。まち全体として、未来につながるようにまちづくりを推進できればと思う。</p>
22	<p>まちづくりビジョンの伝わりづらさについて、ビジョン2～5は、ビジョンの目的がイメージできる。ビジョン1は、つながること自体が目的と感じられる。つながる先の目的・イメージが伝わるようにしたい。</p>

《素案に係る審議会での意見・課題整理》

- ビジョン1「ひととまちがともにつながる」について、「しごと（産業振興）」を含む表現を検討する。また、「基本的な方向性」の中でも、地場産業振興に併せて、産業振興（市内産業・市内事業者）についても整理する。
- アンケート結果の基本構想への反映については、アンケートでの課題を整理し、各ビジョンに内容を整理する。
- まちづくりビジョンの整理として、目的、分野、ビジョン間、関連事業（既存事業、想定事業、計画事業等）を整理する。（図表化についても検討する。）

【今後の予定（案）】

- 令和5年4月頃 第4回 東かがわ市基本構想審議会
 《審議会内容》次期東かがわ市基本構想（案）
- 令和5年5月頃 第5回 東かがわ市基本構想審議会
 《審議会内容》市長への次期基本構想（案）・審議結果等の報告
- 令和5年6・7月頃 パブリックコメント実施
- 令和5年8月頃 第6回 東かがわ市基本構想審議会
 《審議会内容》パブリックコメント結果報告
 東かがわ市基本構想（案）最終報告